

小田池（おだいけ）

位置図



諸元

貯水量	1,419.3	千m ³
満水面積	33.4	ha
受益面積	380	ha
堤高	10.5	m (最大)
堤長	1,721	m

小田池は、高松市南西部に位置する県内屈指の貯水量を誇るため池です。

江戸の初頭、梅雨の長雨により築造途中の小田池の堤防があちこちで崩壊して、池の完成を目指す普請奉行をはじめとする人夫達を苦しめていました。そのころ、伊勢から派遣され、讃岐の国の治水利水の政務を任された西嶋八兵衛が築造に途中から加わり、当時としては非常に卓越した水利土木技術を駆使し、最終的に7カ年を要した池の工事は無事に完成しました。

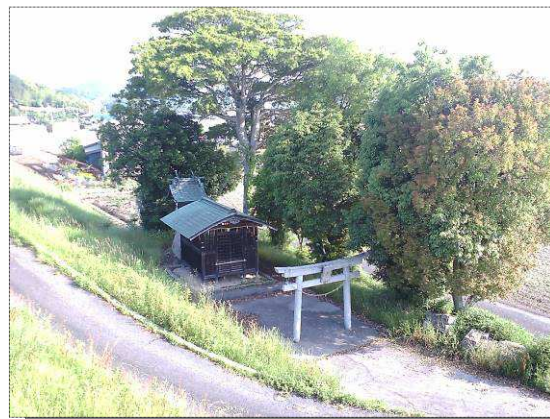
この築造工事には悲しい言い伝えが残っています。時は江戸初期。『人柱』を立てなければ長引いていた築造工事が完成しないとの思いが人夫達に広がっていました。そのため、雨の日に、たまたま工事現場を通りかかった奥方と女中が捕らえられて、池に埋められてしまったそうです。池の完成後、人夫達により奥方は池明神として、女中は諏訪明神としてそれぞれ祭られたということです。

西嶋八兵衛による築造後も、数回の増改築が重ねられてきています。また、池の水は直接的な流域だけでは十分に受益農地を潤すことができないので、小田池の東に流れる香東川を高松市の旧香南町由佐で堰き止めて、約5kmにも及ぶ水路で導水をしています。川内の井堰は当初、土砂造りであったので洪水の度に破損決壊してその補修費用が池関係者を長年苦しめていました。戦中戦後を含めた13年の歳月をかけて、昭和31年(1956年)にコンクリート造りの井堰と導水路が完成しました。その後の昭和49年(1974年)には香川用水の通水により、江戸初期から続いていた水に対する不安や多大な出費がやっと解消されました。

池を見下ろす諏訪山にある諏訪明神と、堤防に寄り添うようにたたずんでいる池明神。これらの明神様も小田池に刻まれた長い苦しい水の歴史をしのんで、先人たちの偉業に敬意を払いながら、小田池に飛来する水鳥達を見守っていることでしょう。



諏訪明神



池明神